

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第347号
平成27年11月2日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

10年目のわかば学級

校長 鈴木 隆志

本校わかば学級は、平成18年4月に開級しました。児童数18名、3学級編制での開級でした。その後、児童数は増え続け、平成23年度には児童数42名となり、当時としては都内で最も児童数の多い特別支援学級となりました。昨年度までの卒業生は、53名を数えます。開級から10年目の今年度は、28名の子供たちが通っています。

わかば学級の入り口に、『わかばの魂 百まで』の言葉が掲げられています。開級以来10年間、熱い思いを綿々とおつないできました。変わらぬ思いは、「スモールステップで進める特別支援教育」です。一人一人の発達の状況を見極めた上で、スモールステップによる達成目標及び課題を設定し、個に応じた支援を続けています。支援には二つの側面があり、一つは「子供が分かるための支援」、もう一つは「子供が安心・安定するための支援」です。例えば、手本や図を見ることで、視覚的な面から理解を深めることは、子供が分かるための支援であり、一単位時間の授業の見通しをもって活動できるようにすることは、子供が安心・安定するための支援です。

わかば学級では、通常の学級と同様に、国語、算数、音楽、図工、体育、道徳、総合的な学習の時間（3～6年）、外国語活動（5・6年）、特別活動の指導を行っています。また、わかば学級独自のものとしては、日常生活の指導、生活単元学習があります。日常生活の指導とは、衣服の着脱、食事、排泄、体力作り、月日、天気、一日の予定などを学ぶ時間です。生活単元学習とは、校外学習、栽培、調理、スウェーデン刺繍などを学ぶ時間です。

そして、通常の学級との交流及び共同学習にも取り組んでいます。縦割り班による光っ子活動や、クラブ活動（4～6年）、委員会活動（5・6年）をはじめ、交流給食、社会科見学等の校外学習、行事等での共同学習などで、通常の学級の子供たちと一緒に活動をしています。普段から一緒にいることが当たり前の光っ子たちなので、互いに理解し合いながら、関わり合いを深めています。

先月の運動会でも、わかば学級の子供たちは通常の学級の子供たちと一緒に溶け合って一生懸命に頑張りました。高学年の組体操もそうでした。高学年は、運動会の係としても活躍しました。中学年や低学年も、みんなが笑顔いっぱい、大きな集団の中での活動を楽しんでいました。中でも、私が感激したのは、低学年の「大玉ころがし」です。二人一組で大玉を転がし、リレーをしていきます。速さを競う競技なのですが、一緒に組んだペアの二人が、走るスピードを合わせながら協力して大玉を転がしていたのです。相手を思いやる心に触れ、とても嬉しく思いました。わかば学級の子も通常の学級の子も、互いに関わり合う中で、優しい心を育てているのでしょう。

さて、今月14日（土）に、わかば学級の10年目をお祝いして、『光っ子まつり』を実施します。全校みんなで仲良く楽しく遊ぶ集会です。はじめに、体育館で開会式（わかば学級の紹介、クイズ、全校合唱）を行ったあと、各クラスのお店屋さんを回ります。それぞれのクラスが、工夫を凝らした楽しいお店を準備して待っています。保護者の皆様、地域の皆様もぜひ御参加いただき、子供たちとともにわかば学級の10年目をお祝いしてください。